

瓦谷山



瓦谷山だより

【お知らせ】

このたび真光寺では、曹洞宗大本山永平寺に檀信徒の皆様、縁の会会員の皆様と団体参拝することと致しました。初めて真光寺単独で行います。檀信徒でなくても結構です。御縁者もお誘いいただき、大勢の御参加をお待ちしております。詳しくは、同封のご案内をご覧ください。

vol.13

発行日 2010年3月 吉日
発行人 (宗) 真光寺 岡本和幸
印刷 現代社
編集 (宗) 真光寺

問い合わせ先
(宗) 真光寺
TEL 0438-75-7414

◎お寺HP
<http://www.shinko-ji.jp/>
◎上総自然学校HP
<http://www.shinko-ji.jp/satoyama/>
◎お寺ブログ【瓦谷山だより】
<http://sinkoji.cocolog-nifty.com/news/>

ご挨拶

お釈迦様のおさとりは、簡単にいうと「『私』というものの見方を取り払って考えてみると、すべては調和をして、平和で喜びに満ちていた」ということだと思っています。

この身体は、本来は何もないところから縁起しています。ばらばらだった要素がたまたま寄り集まってでき上がったもので、それぞれの要素を見ていくと、「私」というものはどこにも存在しないのです。しかしながら私たちは生まれてからの経験の積み重ねを「私」だと思い、「私」の存在を確信しています。その確信が、「もっとこうなればいいのに」という不満や、思うようにいかない苦しみを次々に生んでしまいます。しかしその「私」という思いを除いてみたらどうでしょう。たとえばひざが痛い時には、ひざは痛みを感じることで無理をしないように注意を促し、身体が調和するようにつとめていると考えれば、見方も違ってくるのではないのでしょうか。

外の世界に目を転じれば、日の光は燦燦と降り注ぎ、大地は緑に溢れ、生命はそれぞれの命を謳歌し、生まれ育まれそして死んでいきます。お釈迦様は、すべてが調和と平和と喜びに満ちている、なんと有難い命をいただいたで、有難いところに生かしていただいていたのだらうと気づくことでさとりを開かれ、深い苦悩から解放されたのではないかと思います。

しかしながら、「私」という思いはなかなか取り払うことのできない強力なものです。だからこそお釈迦様が示された教えにしがたい、常に一歩退いたところから「私」を見つめ、自然のあるがままの姿に学び、天地いっばいに与えられた命を燃やしつくす生き方を目指す、それが仏教徒の生き方であると思います。

こうした生き方を実現するために示された教えに「戒・定・慧」の三学があります。「戒」は文字通り自戒のことで、自らの思いを諫めるための学びです。「定」は禅定のこと、心の落ち着きを学びます。「慧」は智慧のこと、正しい智慧を学びます。自らを諫め、心静かに正しい智慧を働かせ、本来あるべき姿を常に心に留めて生きていく生き方をお釈迦様は示されました。

た。こうした仏教の示す生き方の原点に帰り、自らの行いを見つめ直していきたく考えています。

本誌と共に皆様にご案内しておりますが、久しぶりに曹洞宗檀信徒の信仰の帰趨、大本山永平寺への旅を企画しています。真光寺単独での初めての旅行です。この機会にぜひご参加下さい。春から秋にかけての田んぼの活動は、N T T労働組合有志につづき、J T Bが「旅育」という企画を立ち上げ、東京の子供たちを集め、活動を行うこととなりました。地元の皆様には益々お騒がせすることと思いますが、何卒よろしくお願い致します。

合掌

住職 岡本和幸



ご祈祷の前に
この地の神仏にお願いをする為の法螺貝を吹く住職

行事報告

「檀信徒」

◆修正会大般若祈祷・年頭法要

しゆしょうえたいはんによきじう
平成二十二年一月三日(祝・月) 修正会大般若祈祷・年頭法要
(写真上・中)を行いました。法要後は、本年もワハハ本舗所属・
コラーゲンハイゴーマン氏による「漫談」(写真左下)で盛り上が
りました。



「縁の会会員」

◆七日法要

・平成二十一年十二月(植樹祭)、十二月(大掃除)の様子



月例供養七日法要



地域野菜の精進料理



十一月 植樹祭
(写真上・右)



授戒式ならびに
月例供養の様子



書院での法要の様子
(写真左・下)



十二月 大掃除
(写真下・左)



・平成二十二年一月七日(木) 修正会大般若祈祷・年頭法要
午前は仏殿にて当月ご逝去された会員の方々の月例供養と新しい会員の
授戒式。午後は修正会大般若祈祷を書院にて行いました。



今も現役で山の手入れをし、美しい森を育てている地元の方(左)。山のお話を聞かせてもらいました。



藪道を抜けると広々とした空間が。ついこの間まで笹に一面覆われていたのに！



「え、ここを通るの!？」
かろうじて一人通り抜けられる藪道を抜けます。



お疲れさまでした！今年度はローソンの募金の助成を受けることができました。ありがとうございます！



背丈の倍ほどもある笹を切り開いていきます。手強い仕事です。

11月
うませと
馬瀬戸

上総自然学校 (里山再生活動)

風景を 開きませんか？

☆冬の里山 森林整備イベント☆

☆山道づくり☆



チェーンソー講習を受け早速木の伐採にチャレンジ。ただ刃を入れればよいという訳ではないのが難しい。



お寺の目の前にある浅間山。かつては笹と竹に覆われ暗い山でしたが、今ではこんなに明るい山に。



ほら、階段ができてきた！
以外に楽しい土木作業(笑)



12月
浅間山
せんげんやま

山頂の広場まで続く滑りやすい斜面を削り、安心して登れるような山道の階段作り。資材は現地調達です。



イベントでは既に恒例となった笹刈り。地味な作業ですが、少しずつ風景が変わっていくのは気持ちが良いです。



チェーンソー(左)とノコギリ(右)で玉切り。やっぱり機械の方がだんぜん早い！！

1月
うませと
馬瀬戸



積みも積もった落ち葉を米ぬかを混ぜながら一か所に集め、堆肥づくり。もちろんできた堆肥は田んぼの肥しになります。

冬の里山・森林整備イベント『風景を開きませんか?』も今年で2回目を迎えました。上総自然学校で耕作している2本の谷津田に挟まれるように立っている馬瀬戸の山と、真光寺の旧本堂の正面にそびえる浅間山(せんげんやま)の二つの山がフィールドです。この二つの山は昨年までは笹にびっしりと覆われ、山に入ることはもちろん、奥を見通すこともできませんでした。昨年は馬瀬戸のふもとの笹刈りをイベントで行い、その後は上田とアクショングリーンの方々が機械で刈り開き、なんとか山を越えて2本の谷津田を行き来できるまでに開かれました。馬瀬戸は株立ちしているクヌギやコナラの二次林が主で、その昔は薪炭林として利用されていたことがうかがえます。かと思えば放置され、ひよろひよろのスギの木ばかりの人工林があったりと、かつて人々がどのように山を利用していたかが良くわかります。

イベントを通して山がどのように利用されていたか、そして現在の状態を目の前にしながら作業を行い、これからどうしていくのか、どういうふうに関われるのかなどという思いを巡らせつつ、冬の里山を楽しんでいただけたと思います。そして、昔の人は生活のなかで上手に身近な資源を利用(落ち葉堆肥や薪炭、シイタケのホダ木等)して、大きな循環のもとで暮らしていたのだなど、改めて感じる冬のイベントでした。

上総自然学校イベントスケジュール

◇谷津田のお米作り

『畦塗』 畦に田の泥を塗り、水漏れを防ぎます

・平成二十二年四月 十七日(土) ※各日日帰り

・平成二十二年四月 十八日(日)

『田植え』

・平成二十二年五月二十二日(土) ※各日日帰り

・平成二十二年五月二十三日(日)

『草取り&ホタル狩り』

・平成二十二年六月二十六日(土)

・平成二十二年六月 二十七日(日) ※各月とも

・平成二十二年七月 十七日(土) 一泊二日

・平成二十二年七月 十八日(日)

〈参加費〉・日帰り 二千円(保険代込)

・一泊二日 六千円(三食・保険代込)

◇里山自然観察会(NPO法人千葉自然学校共催イベント)

『春の里山・植物探し』

・平成二十二年四月二十九日(祝木)

『初夏の里山・水生昆虫探し』

・平成二十二年五月二十九日(土)

・平成二十二年六月 五日(土)

『夏の里山・昆虫探し』

・平成二十二年七月三十一日(土)

〈参加費〉五百円(保険代込)

※ご参加頂くにはお申込みが必要です。詳しくはhpを閲覧いただくか、お電話でお問い合わせください。

ご本尊様修復完了のご報告

このたび皆様からお預かりした浄財で、ご本尊様はじめ、山内すべての仏像の修復を完了することができました。見ちがえるような立派なお姿で帰ってきてくださいました。浄財の合計は、百六十四萬円となりました。心より御礼申し上げます。ここに、修理成った仏様のお姿をご披露すると共に、ご寄進いただいた皆様のお名前を記し御礼と致します。

●本尊 釈迦牟尼仏立像

約三百年前、江戸時代の末期に制作されたお釈迦様の立像です。もとは中品の中性の阿弥陀仏であったものを明治時代に手の印相を換えてお釈迦様としたようです。かわいらしいお顔のほとけさまです。



修復前



修復後

●脇侍 観音菩薩立像

阿弥陀様の脇侍は観音、勢至と決まっています。ご本尊様と同時に作られた観音菩薩立像です。阿弥陀様の左側。向かって右側の脇侍です。



修復前



修復後

●脇侍 勢至菩薩立像

観音様と共に阿弥陀様に仕える勢至菩薩の立像です。大勢至菩薩とも呼ばれ、衆生の無知を救う仏の智慧を表します。名前の通り威力が強く、足をひと踏みするだけで、三千世界はもとより、大魔王の宮殿さえも激しく揺るがすといわれています。阿弥陀様の右側。向かって左側の脇侍です。



修復前



修復後

●鷹山殿召禪師坐像

元來道元禪師像とされてきましたが、両手がなく、法器もありませんでしたので、ご開山、鷹山殿召禪師坐像として修理をしました。これからはご開山様としてご信仰したいと思えます。



修復前：道元禪師



修復後：鷹山殿召禪師

●地藏菩薩立像

お地藏様はいつでもどこでも誰でも救いの手を差し伸べてくれる仏さまです。閻魔王の化身ともいわれます。地藏の地とは大地という意味で、様々な恵が私たちに潤してくれていることを象徴するほとけさまでもあります。



修復前



修復後

●薬師瑠璃光如来座像

病院のない時代には薬師如来におすがりするより他に病を直す方法がありませんでした。上総の国でも薬師信仰が広く行われ、今日でも人が亡くなると地域の寺院に薬師参りをする風習が残っています。厨子に入ったこの薬師如来は薬師堂完成の暁には秘仏とし、十年毎に開帳行事を行いたいと思っております。



修復後



修復前

●「寄進者」芳名

為仏像修復

- 金 五拾萬圓也
志主 鈴木 守
- 金 壹拾萬圓也
志主 松澤美佐子 平野 文子
- 金 六萬圓也
志主 川嶋 清
- 金 参萬圓也
志主 宇田川 弘
- 金 弐萬圓也
志主 高吉 晋 井内 満 小沢 誠一 松澤 正男(倉) 小山 孝 高吉 俊雄 田中 隆 武田 英孜 島田 孝平 綱川 一幸
- 金 壹萬圓也
志主 佐藤 貞夫 井内 正美 松沢 誠治 鈴木 トシ

敬称略・順不同

皆様のお名前は記名し、仏像の台座の中に奉納致します

- 松澤 正男(天正)
- 石塚 吏司
- 鈴木 比呂子
- 松沢 美智男
- 松澤 聖子
- 高吉 正男
- 小沢 清吉
- 松澤 三夫
- 石木 正敏
- 小沢 一聡
- 小沢 清一
- 小沢 長
- 鈴木 重則
- 森 幸子
- 小沢 正之
- 鈴木 一彰
- 鈴木 芳明
- 吉橋 さち子
- 高吉 文夫
- 松沢 武吉
- 林田 任弘
- 渡辺 俊彦
- 小谷 健
- 木村 雅好
- 寺脇 四郎
- 清水 洋子
- 松澤 孝男
- 鈴木 義弘
- 星野 恵宣
- 森 清
- 山本 章夫
- 山本 義雄
- 小山 秀夫
- 加藤 きよ子
- 三田 かね
- 飯島 新平
- 竹内 寿太郎
- 高吉 俊雄
- 斎藤 達美
- 溝口 節子
- 小山 博
- 金子 芳夫
- 白沢 権太郎
- 金子 務
- 柴田 正男
- 鈴木 勝利
- 高吉 薫
- 高吉 喜一

金 五仟圓也

- 志主 小沢 茂之 小沢 広之 山本 雅子 下尾 吉徳
- 鈴木 芳夫 貴島 武哉 中佐 千恵子 長瀬 和子 三好 一行 小川 四朗 安部 利栄 岸本 不二子 石井 菊次郎 吉田 月英
- 高吉 良雄 高野 有倫 上原 春美



計 1,640,000 円也

ご芳名には特に仏像のお布施とお申し出いただいた方のお名前を記させて頂いておりますので、ご記名に漏れのある場合がございます。大変恐れ入りますが、おこころあたりのある方は必ずお申し出頂きますよう、お願い申し上げます。

行事予定

「檀信徒」

◇花祭り法要・檀信徒総会

平成二十二年四月十一日(日)午前十一より(台所当番・台)
お釈迦様の降誕を祝い、法要後は檀信徒総会を開催致します。
総会終了後には親睦会を行います。川原井地区の檀信徒の皆様は送迎致します。役員が出欠を取りましますのでお申し込み下さい。また近住の皆様もお申し込みがあれば送迎致します。電話等にてお申し込み下さい。

◇寺のある暮らし・春

千葉県袖ヶ浦市真光寺で行う「寺のある暮らし・春」。里山の散策や食べられる野草摘みなどの田舎の山寺の体験、住職による仏教話、写経、坐禅など。無理のない範囲でプチ修行も致します。夜は鍋を囲んでよもやま話。老若男女問わずお気軽にご参加下さい。

日時 五月四日(火) 十一時集合 ～ 五日(水) 十五時解散
場所 真光寺

総武線快速君津行き 姉ヶ崎駅下車 送迎します。

参加費 六千円 一泊四食付き

定員 十名

申し込み 真光寺までお電話又はFAXでお申し込みください。

◇お寺掃除

七月三日(土) 根澄山台 ・ 八月一日(日) 新田 表場下 表場上

◇婦人会ご詠歌練習日

三月 九日(火)・二十三日(火) 午後七時半より
四月十三日(火)・二十七日(火) 午後七時半より
五月十一日(火)・二十五日(火) 午後八時より
六月 八日(火)・二十二日(火) 午後八時より
七月 六日(火)・二十日(火) 午後八時より
場所 真光寺 (どなたでも予約なしで参加できます)

「縁の会会員」

◇七日法要(打ち出し十一時)

四月「植樹祭」 平成二十二年四月四日(日)

【午前】授戒式・月例供養 【午後】植樹祭

五月「田植え祭」 平成二十二年五月七日(金)

【午前】授戒式・月例供養 【午後】里山散策

六月「中元祭」 平成二十二年六月七日(月)

【午前】授戒式・月例供養 【午後】坐禅

七月「大施会法要」 平成二十二年七月四日(日)

【午前】授戒式・月例供養 【午後】施食法要

*昼食準備の都合上、ご出席いただく場合は必ずお電話等でご予約ください。
午前のみ・午後のみのご参加もできます。

*電車・バスでの参加の方には送迎を致します。お電話等でご予約ください。

■送迎時間

□電車の方 JR内房線「袖ヶ浦」駅 10時10分着

□バスの方【土日祝】 品川発9時35分↓袖ヶ浦BT 10時22分着

横浜発9時40分↓袖ヶ浦BT 10時22分着

川崎発9時25分↓袖ヶ浦BT 10時14分着

品川発9時25分↓袖ヶ浦BT 10時12分着

横浜発9時30分↓袖ヶ浦BT 10時12分着

川崎発9時15分↓袖ヶ浦BT 10時04分着

□お車の方 10時40分頃までにお越しください。

各種お申込み連絡先

TEL 0438-75-7414 (代表)

TEL 0438-75-7365 (縁の会事務局)

FAX 0438-75-7630

e-mail ennokai@shinko-ji.jp (縁の会)

satoyama@shinko-ji.jp (上総自然学校)